

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. アメリカの仕入先より商品 1,000 ドルを掛けて購入した。この時の為替相場は1ドル ¥ 110 であった。
2. アメリカより仕入れた商品代金 1,000 ドルを支払うために、取引銀行でドルに両替し、当座預金口座より仕入先に送金した。購入時の為替相場は1ドル ¥ 110、支払時の為替相場は1ドル ¥ 105 であった。
3. アメリカの得意先に商品 1,000 ドルを輸出し代金は掛けとした。この時の為替相場は1ドル ¥ 100 であった。
4. アメリカの得意先に対する売掛金 1,000 ドルについて決算処理を行った。購入時の為替相場は1ドル ¥ 100、決算日の為替相場は1ドル ¥ 108 である。
5. 先に決算処理を行ったアメリカの得意先に対する売掛金 1,000 ドルについて、本日送金があり、当座預金に入金された。購入時の為替相場は1ドル ¥ 100、決算日の為替相場は1ドル ¥ 108、本日の為替相場は1ドル ¥ 106 である。
6. アメリカの仕入先より商品 6,000 ドルを掛けて購入した。この時の為替相場は1ドル ¥ 100 であり、掛け代金の決済日は、再来月末の予定である。なお、当店では商品売上の記帳は、商品を仕入れたとき商品勘定に記入し、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法によっている。
7. 取引銀行との間で、上記の買掛金支払いのために 6,000 ドルを1ドル ¥ 105 で購入する為替予約を結んだ。なお、振当処理を適用することとするが、購入時の為替相場による円への換算額と、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。なお、為替予約時の為替相場は1ドル ¥ 107 であった。
8. 上記の輸入代金 6,000 ドルの支払期日を迎えたので、取引銀行との為替予約契約にもとづき、仕入先に 6,000 ドルを送金し、当座預金から決済した。なお、支払時の為替相場は1ドル ¥ 108 であった。
9. 輸入取引により生じた買掛金 ¥ 13,800 (取引時の為替相場：1ドル ¥ 115) について、決算処理を行う。決算日の為替相場は1ドル ¥ 120 である。
10. 受取手形 ¥ 280,000 と売掛金 ¥ 365,000 の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法によって計上する。なお、売掛金には米ドル建てのものが ¥ 25,500 (1ドル ¥ 102) あり、決算日の為替相場：1ドル ¥ 110 に換算する。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 5,000 である。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	仕 入	110,000	買 掛 金	110,000
2	買 掛 金	110,000	当 座 預 金 為 替 差 損 益	105,000 5,000
3	売 掛 金	100,000	売 上	100,000
4	売 掛 金	8,000	為 替 差 損 益	8,000
5	当 座 預 金 為 替 差 損 益	106,000 2,000	売 掛 金	108,000
6	商 品	600,000	買 掛 金	600,000
7	為 替 差 損 益	30,000	買 掛 金	30,000
8	買 掛 金	630,000	当 座 預 金	630,000
9	為 替 差 損 益	600	買 掛 金	600
10	売 掛 金 貸倒引当金繰入	2,000 7,940	為 替 差 損 益 貸 倒 引 当 金	2,000 7,940

- 取引が発生した時は、その時の為替レート（または予約レート）で換算・記帳する。
- 決済は、決済時の為替レートでなされるので、差額を為替差損益とする。
- 決算時に外貨建ての債権・債務がある場合は、決算時の為替レートで換算し、このときの差額も為替差損益となる。
- 決算等で換算した外貨建て債権・債務の決済時は、換算後の金額を基準に為替差損益を計上する。
- 取引発生後に為替予約を行った場合は、予約レートに換算し、差額を為替差損益とする。
- 予約レートで換算した外貨建て債権・債務について、決済時の換算は行わない。
- まず、外貨建て債権を決算時レートに換算替える。

$$\text{為替差損益} = (\text{¥ } 25,500 \div \text{¥ } 102) \times (\text{¥ } 110 - \text{¥ } 102)$$

換算替えた金額で、貸倒引当金を計上する。

$$\text{設定額} = (\text{¥ } 280,000 + \text{¥ } 365,000 + \text{¥ } 2,000) \times 2\% = \text{¥ } 12,940$$

$$\text{繰入額} = \text{設定額} - \text{残高} = \text{¥ } 12,940 - \text{¥ } 5,000 = \text{¥ } 7,940$$

氏名 _____

得点	/ 20
----	------

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

問 題 (20 点)

次の輸入関連取引と商品販売取引(平成X1年1月1日から12月31日までの会計期間)の[資料1]、[資料2]および[注意事項]にもとづいて、(1)答案用紙に示された総勘定元帳の買掛金、商品および機械装置の各勘定の記入を示し、(2)損益に関する勘定のうち、①当期の売上高、②当期の為替差損、および③当期の為替差益の金額を答えなさい。

[資料1] 輸入関連取引

取引日	摘 要	内 容
1月1日	前期繰越	輸入商品X 数量2,000個@¥1,000 買掛金(ドル建て)¥3,150,000 前期末の為替相場1ドル¥105
2月28日	買掛金支払	期首の買掛金(ドル建て)を普通預金から全額支払い。 支払時の為替相場1ドル¥110
4月30日	輸 入	商品X 3,000個を@10ドルで、3か月後払いの条件で輸入。 輸入時の為替相場1ドル¥108
7月31日	買掛金支払	4月30日に計上した買掛金(ドル建て)を普通預金から全額 支払い。支払時の為替相場1ドル¥112
11月1日	輸 入	自社で使用する機械装置Y(購入価格51,000ドル)を、 3か月後払いの条件で輸入。輸入時の為替相場1ドル¥114
11月1日	輸 入	商品X 2,000個を@11ドルで、3か月後払いの条件で輸入。 輸入時の為替相場1ドル¥114
12月31日	決 算	決算日の為替相場が1ドル¥120となった。
12月31日	決 算	实地棚卸を行ったところ、商品Xの实地棚卸数量は、 950個であった。
12月31日	決 算	輸入した機械装置の減価償却費を2か月分計上。

[資料2] 商品販売取引

取引日	得意先名	数 量	販売単価
1月31日	A商会	1,000 個	@ ¥1,800
5月15日	B商会	1,000	@ ¥2,000
6月30日	C商会	1,000	@ ¥2,050
11月15日	D商会	1,500	@ ¥2,200
12月1日	E商会	1,500	@ ¥2,250

[注意事項]

1. 当社は、棚卸資産の払出単価の決定方法として移動平均法を採用している。
2. 当社は、商品売買の記帳に関して、「販売のつど売上単価に振り替える方法」を採用している。
3. 实地棚卸の結果生じる棚卸減耗損は、独立の項目として表示している。
4. 機械装置の減価償却は、耐用年数10年、残存価格ゼロの定額法により行い、記帳方法は、直接法による。
5. 決算にあたり、各勘定を英米式決算法にもとづき、締め切る。

氏名 _____

(1)

総勘定元帳

買掛金

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	2	28	普通預金		X1	1	1	前期繰越	
	12	31	次期繰越						

商 品

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	1	1	前期繰越		X1	1	31	売上原価	
	4	30							
						12	31	次期繰越	

機 械 装 置

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	11	1							
						12	31	次期繰越	

(2) 損益の金額

① 当期の売上高 ¥ _____

② 当期の為替差損 ¥ _____

③ 当期の為替差益 ¥ _____

(1)

総勘定元帳
買掛金

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	2	28	普通預金	3,150,000	X1	1	1	前期繰越	3,150,000
	7	31	普通預金	3,240,000		4	30	商 品	3,240,000
	12	31	次期繰越	2,640,000		11	1	商 品	2,508,000
						12	31	為替差損	132,000
				9,030,000					9,030,000

商 品

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	1	1	前期繰越	2,000,000	X1	1	31	売上原価	1,000,000
	4	30	買掛金	3,240,000		5	15	売上原価	1,060,000
	11	11	買掛金	2,508,000		6	30	売上原価	1,060,000
						11	15	売上原価	1,735,500
						12	1	売上原価	1,735,500
						12	31	棚卸減耗損	57,850
						12	31	次期繰越	1,099,150
				7,748,000					7,748,000

機 械 装 置

年	月	日	摘 要	借 方	年	月	日	摘 要	貸 方
X1	11	1	未払金	5,814,000	X1	12	31	減価償却費	96,900
						12	31	次期繰越	5,717,000
				5,814,000					5,814,000

(2) 損益の金額

① 当期の売上高 ￥ 12,525,000

② 当期の為替差損 ￥ 708,000

③ 当期の為替差益 ￥ 0

出所：149回（平成30年6月10日）第2問

問題 京浜商店は、毎日の取引を入金伝票、出金伝票、振替伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から各関係元帳に転記している。同店の平成X6年10月1日の取引に関して作成された以下の各伝票にもとづいて、(1)仕訳日計表を作成し、(2)さらに総勘定元帳に転記しなさい。また、伝票の記録から仕入先元帳の諸勘定に転記しなさい。(20点)

入金伝票No. 101 (受取家賃) 90,000	出金伝票No. 201 (買掛金) 鶴見商店 80,000	
入金伝票No. 102 (売掛金) 浦和商店 120,000	出金伝票No. 202 (売買目的有価証券) 150,000	
入金伝票No. 103 (借入金) 200,000	出金伝票No. 203 (買掛金) 川崎商店 90,000	振替伝票No. 309 (買掛金) 横浜商店 90,000 (支払手形) 90,000
入金伝票No. 104 (売掛金) 川口商店 130,000	出金伝票No. 204 (未払金) 180,000	振替伝票No. 310 (買掛金) 鶴見商店 70,000 (売掛金) 川口商店 70,000
振替伝票No. 301 (仕入) 150,000 (買掛金) 川崎商店 150,000	振替伝票No. 305 (売掛金) 川口商店 170,000 (売上) 170,000	振替伝票No. 311 (未収金) 350,000 (売買目的有価証券) 310,000 (有価証券売却益) 40,000
振替伝票No. 302 (仕入) 130,000 (買掛金) 鶴見商店 130,000	振替伝票No. 306 (売掛金) 浦和商店 140,000 (売上) 140,000	振替伝票No. 312 (受取手形) 110,000 (売掛金) 大宮商店 110,000
振替伝票No. 303 (仕入) 110,000 (買掛金) 横浜商店 110,000	振替伝票No. 307 (売掛金) 大宮商店 120,000 (売上) 120,000	振替伝票No. 313 (備品) 30,000 (修繕引当金) 100,000 (修繕費) 10,000 (未払金) 140,000
振替伝票No. 304 (買掛金) 川崎商店 15,000 (仕入) 15,000	振替伝票No. 308 (売上) 7,000 (売掛金) 浦和商店 7,000	

氏名 _____

(解答用紙)

得点	／20
----	-----

仕 訳 日 計 表

平成X6年10月 1 日 26

借 方	元	勘 定 科 目	元	貸 方
		現 金		
		受 取 手 形		
		売 掛 金		
		売買目的有価証券		
		未 収 金		
		備 品		
		支 払 手 形		
		買 掛 金		
		借 入 金		
		未 払 金		
		修繕引当金		
		売 上		
		受 取 家 賃		
		仕 入		
		修 繕 費		
		有価証券売却()		

総 勘 定 元 帳

現 金 1

平成X6年	摘 要	仕	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	92,000	借	92,000

買 掛 金 11

平成X6年	摘 要	仕	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	475,000	貸	475,000

仕 入 先 元 帳

川崎商店 仕 1

平成X6年	摘 要	仕	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	133,000	貸	133,000

鶴見商店 仕 2

平成X6年	摘 要	仕	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	187,000	貸	187,000

横浜商店 仕 3

平成X6年	摘 要	仕	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	155,000	貸	155,000

仕 訳 日 計 表

平成X6年10月 1 日

26

借 方	元	勘 定 科 目	元	貸 方
540,000	1	現 金	1	500,000
110,000		受 取 手 形		
430,000		売 掛 金		437,000
150,000		売買目的有価証券		310,000
350,000		未 収 金		
30,000		備 品		
		支 払 手 形		90,000
345,000	11	買 掛 金	11	390,000
		借 入 金		200,000
180,000		未 払 金		140,000
100,000		修繕引当金		
7,000		売 上		430,000
		受 取 家 賃		90,000
390,000		仕 入		15,000
10,000		修 繕 費		
		有価証券売却(益)		40,000
2,642,000				2,642,000

総 勘 定 元 帳

現 金

1

平成X6年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v	92,000		92,000
	"	仕訳日計表	26	540,000		632,000
	"	仕訳日計表	26		500,000	132,000

買 掛 金

11

平成X6年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v		475,000	475,000
	"	仕訳日計表	26		390,000	865,000
	"	仕訳日計表	26	345,000		520,000

仕 入 先 元 帳

川崎商店

仕 1

平成X6年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v		133,000	133,000
	"	出金伝票	203	90,000		43,000
	"	振替伝票	301		150,000	193,000
	"	振替伝票	304	15,000		178,000

鶴見商店

仕 2

平成X6年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v		187,000	187,000
	"	出金伝票	201	80,000		107,000
	"	振替伝票	302		130,000	237,000
	"	振替伝票	310	70,000		167,000

横浜商店

仕 3

平成X6年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
10	1	前月繰越	v		155,000	155,000
	"	振替伝票	303		110,000	265,000
	"	振替伝票	309	90,000		175,000

< 解法 >

- 伝票を仕訳として読み取れる様に加工する。
- 勘定科目ごとに集計した合計金額を、仕訳日計表に記入して、完成させる。
- 仕訳日計表から総勘定元帳の現金勘定と買掛金勘定へ合計転記する。このとき仕訳日計表の元帳欄には「総勘定元帳の勘定番号」を、総勘定元帳の摘要欄には「仕訳日計表」を、仕丁欄には「仕訳日計表のページ数」を記入する。
- 伝票から直接、仕入先元帳の川崎商店勘定、鶴見商店勘定および横浜商店勘定に個別転記する。このとき、摘要欄には「伝票の種類」を、仕丁欄には「伝票番号」を記入する。